

教育センターだより

12月



426号 令和7年12月 1日

砺波市教育センター HPはこちら

〒939-1398 砺波市栄町7番3号

TEL 33-1559 FAX 33-1157

E-mail tonami-ec@tonami-city.ed.jp



「教師も主体的に学ぶ研修」

自立した学習者を育てるための授業改善の研修は、教師自身が主体的に学ぶ場でもあります。子供が課題を見つけて試行錯誤する姿は、教師が研修で問いを立て、仲間と学び合い、授業を振り返る姿と重なります。研修での学びは子供の学びを映す鏡であり、教師の姿勢そのものが「学び続けることの大切さ」を子供に伝えます。互いに学び合いながら、次の一歩へ進んでいきましょう。

初任者・2年次研修会

期日：令和7年11月20日（木） 場所：砺波まなび交流館

○研修内容：動画視聴後協議、教育長講話



先輩教員の授業動画を視聴した後、導入の工夫や子供の見取りについて協議しました。その学びを踏まえて自分の授業を振り返り、明日から実践できるポイントを見つけっていました。

ICT活用（生成AI）研修会

期日：令和7年11月21日（金） 場所：砺波東部小学校

○研修内容：講演会、ワークショップ

講師 放送大学 教授 中川 一史 先生

金沢大学学校教育学類附属コラボレーション推進室 室長 福田 晃 先生



中川先生のご講演では、生成AIの教育現場での活用状況や、児童・生徒、保護者への周知事例について詳しく伺いました。まず、教員自身が生成AIを試用し、その関わり方を主体的に考えることの重要性をご教示いただきました。

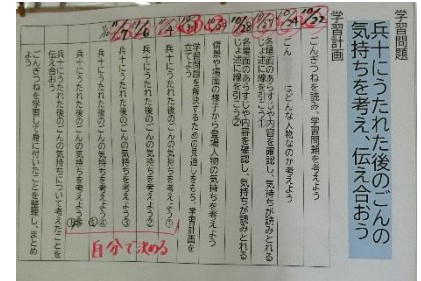
その後、福田先生とのワークショップを通して、実際に生成AIを使用する中で、目的や用途に応じてプロンプトの種類を使い分けることの有効性を、身をもって実感することができました。

学校訪問研修・教育長訪問より〔Part2〕

2学期も授業改善に向けて、学校全体で取り組んでおられる様子が、子供たちや先生方の姿から伝わってきました。

○ 学習者主体の授業づくり

- ・教師自身が、その単元を通して子供がどんな「見方・考え方」を働かせて学びを進めていくのか意識し、学習の計画を立てている。また、子供たちとも単元全体の流れを共有し、何を学んでいくのかを子供自身が意識できるようにしている。
- ・毎時間の終末に「どうやって考えましたか？」等、学び方の振り返りを取り入れることで、子供がその後も「いつでも使える道具」として自然と見方・考え方を働かせることができるようにしている。(例：低学年算数で、10のまとまりとして見ると・・・等)
- ・授業中に子供が考えを深めることができるように、異なる意見の子供の考えを引き出したり、「なぜそう思うの？根拠は？」等、思考を促すような問いかけを行ったりしている。
- ・子供から出た多様な考えを関連付けたり、共通点を見出したりできるように板書等で視覚化し、子供が考えを整理できるようにしている。
- ・導入で既習事項の確認をしたり、黒板に位置付けたりすることで、学び合いの際に子供が見通しをもって課題に取り組めるようにしている。
- ・子供が協働学習（グループ等）をしやすいような机の配置、必要な資料や参考にするべき既習事項の提示など、学びやすい環境を整えている。



○ 安心して学べる環境づくり

- ・教師の表情が柔らかく、声も穏やかでちょうどよい大きさのため、子供が安心して学習に取り組める環境となっている。

○ 教師の主体的な学びのために

- ・週1回終礼の際にミニ研修を取り入れ、子供の姿の見取りの仕方や声かけ等について対話を重ね、日々の授業に生かせるようにしている。

お知らせ

- ・砺波市教育支援センター「ひよどり」では、一人一人の児童生徒や保護者に寄り添った支援を行っています。また、教育センターでは、不登校に関する相談を受けています。必要に応じて、「サポート会議」を実施しています。ひよどりスーパーバイザーの西村 優紀美先生をお呼びして、児童生徒面談・保護者面談・ケース会議などを通して、具体的な支援をすることもできます。希望があれば教育センターにお知らせください。